

イスラエル

State of Israel

	2008年	2009年	2010年	
①人口:772万人(2011年2月現在)	④実質GDP成長率(%)	4.2	0.8	4.6
②面積:2万2,145K m ²	⑤貿易収支(米ドル)	△132億1,070万	△48億6,300万	△77億3,420万
③1人当たりGDP:2万8,686米ドル (2010年)	⑥経常収支(米ドル)	15億2,500万	70億6,300万	66億9,700万
	⑦外貨準備高(米ドル)	425億1,320万	606億1,140万	709億0,730万
	⑧対外債務残高(米ドル)	883億6,500万	932億9,500万	1,060億8,300万
	⑨為替レート(1米ドルにつき, シュケル,期中平均)	3.5880	3.9323	3.7390

〔注〕②:ヨルダン川西岸・ガザ地区を除く。ゴラン高原、東エルサレムを含む
〔出所〕①⑤:イスラエル中央統計局(CBS), ②:イスラエル外務省, ③⑦⑨:IMF, ④⑥⑧:イスラエル中央銀行

金融危機後の低成長から力強い回復

2010年のイスラエル経済は、民間消費支出が前年比4.9%、固定資本形成が12.4%伸び、実質GDP成長率は4.6%と、金融危機の影響を受け低迷した2009年(0.8%)から、大幅な回復を見せた。民間消費支出では自動車(21.7%増)や家具(7.8%増)を中心とする耐久消費財が10.6%増加した。2010年の新車販売台数は前年比25%増の21万6,430台と、史上初めて20万台を突破し好調だった。2010年1月からVATが0.5ポイント引き下げられ16.0%となったことも、多少のプラス要因にはなったが、主に国内景気の全般的な好調さが販売台数の伸びを後押ししたと見られる。固定資本形成は企業設備(12.7%増)、住宅建設(11.7%増)がともに伸びた。一方、輸出入では、ダイヤモンドや工業製品の増加で財・サービス輸出が12.8%と大幅に増加したものの、国内経済の回復に伴い、輸入は輸出の伸びを上回る14.5%増となった。産業別では、製造業(前年比7.8%増)、建設業(7.1%増)、商業・飲食・宿泊業(6.3%増)が好調だった。

2010年の消費者物価上昇率は、住宅価格上昇などの影響を受け、政府目標圏(1~3%)を超える3.4%となっ

た。中央銀行はインフレ抑制のため3回の利上げを行い12月末の政策金利を2.0%としたが、2011年に入ってもインフレは4%前後と目標圏外で推移している。国内では不動産バブルやさらなるインフレを懸念する声もあり、中銀は引き続き金融引き締めを図っている。

2011年第1四半期も、輸出入ともに伸びており、2011年も国内経済は好調が続くとの見方が大勢である。年始からのチュニジア・エジプトに端を発する中東民主化運動は、イスラエルに直接飛び火する可能性は低いですが、エジプトからの天然ガスの供給が一時停止されるなど、経済的な影響として波及している。また、ドル安傾向が長期に渡り続いていることが、輸出産業における今後のリスク要因と言える。

輸出入が拡大、対中国・インド輸入が増加

イスラエル中央統計局(CBS)によると、2010年の貿易は、輸出が前年比21.9%増の584億3,060万ドル、輸入が24.8%増の591億2,240万ドルとなった。輸出入とも2008年の水準(輸出入共に600億ドル超)には及ばなかったが、それぞれ大幅な伸びを示した。慢性的な貿易

表1 イスラエルの主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出(FOB)				輸入(CIF)				
	2009年		2010年		2009年		2010年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
工業製品	44,398.8	53,621.6	91.8	20.8	原材料	31,920.6	41,620.0	70.4	30.4
化学製品	10,383.8	13,946.6	23.9	34.3	機械・電子産業向け原材料	6,526.6	7,816.2	13.2	19.8
石油製品	349.4	462.4	0.8	32.3	化学素材	3,585.5	4,231.4	7.2	18.0
通信・光学・医療・精密機器	6,730.8	7,567.5	13.0	12.4	ゴム・プラスチック	1,569.8	2,047.2	3.5	30.4
電子部品・コンピュータ	4,801.7	4,212.8	7.2	△12.3	ダイヤモンド(未研磨)	2,660.3	4,048.1	6.8	52.2
ゴム・プラスチック製品	1,527.5	1,615.6	2.8	5.8	ダイヤモンド(研磨済み)	2,657.8	4,342.2	7.3	63.4
輸送機器	2,369.6	2,351.3	4.0	△0.8	燃料	8,072.7	10,445.5	17.7	29.4
機械・機器	2,329.8	2,518.9	4.3	8.1	投資財	7,788.5	8,796.8	14.9	12.9
ダイヤモンド(研磨済み)	9,430.9	12,957.7	22.2	37.4	機械・機器	5,279.2	5,680.2	9.6	7.6
ダイヤモンド(未研磨)	2,168.0	3,440.5	5.9	58.7	輸送機器	2,509.3	3,116.6	5.3	24.2
農産品	1,229.9	1,359.5	2.3	10.5	消費財	7,600.8	8,624.6	14.6	13.5
					家具・家電製品	1,894.2	2,072.5	3.5	9.4
合計	47,935.5	58,430.6	100.0	21.9	合計	47,368.2	59,122.4	100.0	24.8

〔出所〕表2とも、イスラエル中央統計局(CBS)。

表2 イスラエルの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル,%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2009年		2010年			2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
化学製品	98.0	113.7	17.3	16.0	化学製品	89.1	134.2	7.5	50.6
宝石・貴金属	57.0	52.1	7.9	△ 8.6	プラスチック・ゴム	61.4	85.5	4.8	39.3
卑金属	46.7	96.2	14.7	106.0	機械・電気機器類	249.5	275.7	15.5	10.5
機械・電気機器類	136.6	145.9	22.2	6.8	輸送機器	999.8	1,138.1	64.0	13.8
光学・医療機器	127.5	166.6	25.4	30.7	光学・医療機器	81.6	75.0	4.2	△ 8.1
合計	527.6	655.8	100.0	24.3	合計	1,523.7	1,779.4	100.0	16.8

赤字の構造には変化は無い。2009年に大幅な減少を見せたダイヤモンドの輸出入が、2010年は研磨・非研磨共に回復し、貿易額全体を押し上げている。取引額自体は2008年の水準には至っていないが、世界的なダイヤモンド市場の流通拠点であるイスラエルの市場が徐々に回復しつつあると言える。

輸出を品目別にみると、主要製品の化学製品が好調で、前年比34.3%増となった。ハイテク分野では、通信・光学・医療機器・精密機器が12.4%増と順調な伸びを示した。輸入は、機械・機器、輸送機器(自動車)などの投資財や、家具・家電製品などの消費財が大きく伸び、特に消費財は、近年の中でも高い水準を記録した2008年と比較しても4.7%増と、国内消費市場の好調さを反映している。

国・地域別に貿易相手を見ると、輸出の約60%、輸入の約45%が欧米である。ここ数年伸び続けているアジアからの2010年の輸入額は、前年比23%増となった。特に、中国からの輸入が96%増、インドも60%増と大幅に伸びた。中国からは機械等を中心とした工業製品の輸入が伸びているのに対し、インドからは、約6割をダイヤモンドなどの貴石類が占めている。貴石類は76.9%増となり、2010年の対インド輸入額全体の伸びを牽引した。

■投資全体は回復、対外投資が対内を上回る

2010年の対外直接投資は、前年比4.6倍の78億ドル、対内直接投資は16.2%増の52億ドルとなった。2006年以来4年ぶりに、対外投資が対内投資を上回った。

対外投資の事例としては、世界的なジェネリック医薬品企業のテバファーマシューティカル・インダストリーズ(以下、テバ)が、独ラティオファームを約36億ユーロで買収した案件がある。このほかイスラエル・ケミカルズが米国スコッツ・グローバル・プロフェッショナル・ビジネスを約2億7,000万ドルで買収するなど、イスラエル大手企業による大型買収案件が見られた。報道等によれば、国内不動産関連企業による海外不動産物件取得も、対外投資増加の要因となっている。

2010年の対内直接投資では、デル、オラクル、グーグ

ル、インテル、ヤフー、ゼネラル・エレクトリック・ヘルスケア、AOL等の案件があった。1億ドルを超える大型投資はIBM、スリーエム、PMCシエラ、メラノック・テクノロジーズ、ロシエであった。アジアからは、中国企業による半導体関連企業への投資(約6,000万ドル)、インド企業による通信関連企業への投資(約1,500万ドル)などがあった。

■対日輸出は24.3%増、対日大型投資案件も続く

CBSによると、2010年の対日貿易は輸出が前年比24.3%増の6億5,580万ドルで、イスラエルの輸出全体の1.1%、輸入が16.8%増の17億7,940万ドルで、輸入全体の3.0%を占めた。輸出入いずれも大幅に増加したが、2008年の水準には至っていない。

イスラエルから日本への主要輸出品目は、機械・電気機器類(構成比22.2%)や光学・医療機器(25.4%)であった。主要輸入品目は輸送機器(自動車)で全体の半分以上を占めた。ただ、輸送機器については日系の輸入販売代理店が、東日本大震災の影響により今後日本車の納車(輸入)が遅れるとの見方を示していることから、今後の対日輸入動向に大きな影響を与える可能性がある。

対日投資では、2010年中に大きな案件はなかったが、2011年に入り4月にはイスラエルの半導体メーカー大手のタワージャズ社がマイクロン・ジャパン社を約1億4,000万ドルで、5月にはテバが大洋薬品工業を約4億6,000万ドルで買収する大型案件が続いた。